



帯広西ロータリークラブ

第2088回例会

2015.4.30

会報



■RI第2500地区テーマ■

誠心誠意

Service With Sincerity



■クラブ・テーマ■

「絆を重んじ、信じ合い、輝やけるクラブを目指そう」

会長報告

平田利器会長

皆さんこんにちは。

前は小春日和やかな挨拶を致しましたが、桜も満開となり初夏のような日になり少し早い夏が続いています。素晴らしい陽気となり屋外活動にも力が入ります。又屋外での焼き肉の季節がやってまいりました。まず以て25日、26日旭川で行われました、PETS、地区協に多数参加され有り難う御座いました。本日は、大型連休が始まり又月末の忙しい日となり心も落ち着かないところで誠に申し訳ありません。本日は私が昭和23年に生まれた町の町長をお招きしての広報委員会担当例会であります。ふるさと納税に積極的に取り組みになり、また寄付金を町の振興全般に活用され、第三音更橋梁の保全、及び活用事業等の用途でも使用していると聞きしています。ふるさと納税「感謝特典制度」は地元の特産品を中心に極めつきは、ナイタイ和牛を中心に展開されていて非常に人気上昇中であります。本日はじっくりと竹中町長の講話を聞かせていただきますよう宜しくお願いいたします。非常に短くて申し訳ありませんが以上、会長報告と致します。



②帯広北RC・帯広東RC・音更RC、3RC合同夜間例会開催のご案内

～十勝ロータリー奨学会支給式～

日 時 5月9日(土)午後6時30分

場 所 十勝農園

※尚、帯広北RC、5月8日(金)の繰下げ例会と致します。

帯広東RC、5月12日(火)の繰上げ例会と致します。

③帯広南RC、移動例会開催のご案内(友好の森整備)

日 時 5月18日(月)午前11時

場 所 友好の森(帯広の森内)

④帯広北RC・帯広東RC・音更RC、3RC合同植樹祭開催のご案内

～環境育成プロジェクト～

日 時 5月24日(日)午前10時30分

場 所 北海道立十勝エコロジーパーク

※尚、帯広北RC、5月22日(金)の繰下げ例会と致します。

帯広東RC、5月26日(火)の繰上げ例会と致します。

委員会報告

各委員会

出席報告

出席委員会

会務報告

天野清一幹事

①帯広北RC、5月1日(金)の例会

は、休会と致します。

帯広南RC、5月4日(月)の例会

は、祝日のため休会と致します。

帯広東RC、5月5日(火)の例会

は、祝日のため休会と致します。

帯広RC、5月6日(水)の例会は、祝日振替のため休会と致します。



ニコニコ献金

披露 鎌田裕樹委員

大友 広明 会員

旭川PETS地区協議会またゴルフに多数出席、誠にありがとうございました。

太田 豊 会員

PETS地区協、分科会への多数の参加、ありがとうございました。



会 長 平田 利器
幹 事 天野 清一

副会長 佐々木和彦
副会長 飯田 正行

会場監督理事 堂山 啓太
プログラム委員理事 久保 且佳

発行：広報委員会
委員長 森 房明 (副)立崎 貴之



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

森 房明 会員

本日は、広報委員会担当例会です。宜しくお願いします。

柳沢 一元 会員

米山記念奨学生とカウンセラのためのオリエンテーションに出席しました。

上野 裕司 会員

旭川遠征、まん中賞と準優勝致しました。

萱場 誠一 会員

南クラブとの親睦コンペで優勝させていただきました。

神田 龍一 会員

結婚祝いありがとうございます。

ニコニコ	4月30日	14,000 円
献金	累計	616,108 円 (4月30日現在)

□プログラム

広報委員会 **森 房明委員長**

委員会を開催しまして、どういったテーマが今旬なテーマかなということではいろいろな意見を出していただいた中で、ふるさと納税、これが1番今皆さんお聞きになりたいテーマではないかなということで、上士幌町長さんであります竹中町長様にお越しいただきました。詳しい内容につきましては、竹中町長さんのほうからお話しいただくということになりますので、皆さん是非参考にしていただいて、ふるさと納税バンバンよろしくお願ひします。



「上士幌町ふるさと納税の取り組み」

上士幌町長 竹中 貢 様



紹介いただきました上士幌町長の竹中です。今日は弊会貴重な時間にお招きいただきましてありがとうございます。ふるさと納税ですが、4月だけでたぶん1億2000万から3000万の見込みになっております。昨年の4月が3000万から3500万く

らいだったと思いますから、大体4倍です。4倍の寄付金が今年増えているということです。それには訳あって、今年より確定申告をしなくてもいいということ、それから寄付金の控除が昨年までは住民税のおおよそ10パーセントまでが1番最も有利な寄付の金額だということですが、今回は20パーセントまで最大寄付をしていただくと、ほとんどその分が戻ってくるというふうになりました。今、町では今年の4月に認定こども園をオープンさせました。今ここに外国人の講師を常駐させて、3歳児から英語、国際理解教育を深めるということをやっており、この認定こども園は幼稚園機能と保育機能を持っております。幼稚園のほうでは、教育的な姿勢を持って、修学前の子育てのほうを充実していきたいという思いを持っています。

通常の幼稚園、保育所とは相当グレードも違いますし、中身のほうはこれからしっかりやっていきたいというふうに思います。

ふるさと納税ですが、北海道で上士幌は断トツであります。昨年の26年度で9億7000万。1番が九州の平戸市で13億くらい稼いでおります。平成の合併が平成の13年から始まりまして、十勝管内では幕別と忠類が合併しました。その時に、総務省の指示もあって、いろいろ近隣町村と検討したわけでありませけれども、結果的にお互いに自立することになりました。自立するに当たって、人口が減っていく、そしてまた財源も少なくなっていく中で、どういった将来像を求め、将来像をしっかり定めてその目標に向かっていくのかということがなければ、住民が不安になるということでもありますので、五つほど将来像を掲げております。

一つには農村、農業という第1産業を基幹産業とした町であります。農業が栄えているということも自立する大きな条件であるということでもあります。26年度決算で農協だけの取り扱いでありますけれども、183億円に達したということでもあります。ですから、この10年間で80億円、大体毎年8パーセントの伸びを示しているということでもあります。

いずれにしても人口は少子高齢化の中で減っていかざるを得ないだろう。そういった中で地域の活力をどう維持をしていくかということの中で、この都市との交流が活発であるということも掲げました。そのために、例えば移住定住の仕掛けだとか、あるいは6次産業化、そういった商品開発だとか、人の交流と物流ですね。この人の交流と物流、首都圏の人方、都市圏の人方と交流することによって人口減

少の活力の低下を補っていこうというのがこの大きな項目でありました。これが、結果的に今ふるさと納税のヒットにつながっていったということになります。

当時から考えたのは、都市の生き方と地方の生き方があると、二つの生き方があるんじゃないかということでもあります。例えば、その象徴的な東京でありますけれども、政治経済含めて24時間世界と向き合っているわけですね。時間を追い越すような生き方をするのがたぶん東京だろうということでもあります。その対極は、上士幌町のような純農村地帯であります。どんなに頑張っても春植えたジャガイモは一定の期間が来なければ収穫ができない。これは時間とともに生きる生き方であるということ。例えば田舎へ来て癒しをしてもらうとか、そのようなことも地方のほうの役割としてあるのではないだろうか。以前はスギ花粉のツアーを企画したこともありました。こういった人方を受け入れる、そういった仕掛けとかを含めて地方としての特性を生かした街づくりや、あるいは資源を生かすことによって、それは都会の人方にとっても非常にプラスになるという関係であります。どっちが優れていて、どっちがマイナスだと、そういう視点ではない、対等の関係でこの街づくりを進めていくのが望ましいという考えでこれまで進めてきました。

例えばお試し暮らし、移住定住であります。たくさんのお問い合わせもありますけれども、残念ながら不動産関係が非常に脆弱で賃貸住宅がない等で、断らざるを得ないという状況が続いております。これはこれからの課題としてなんとかしなきゃならんだろうと思います。

更には、6次産業化もこの地方創生の大きなテーマになっております。なかなかそう簡単に行かないと思っておりますけれども伊勢市の松屋製菓という会社が十勝の素材を使った餡を今作っております。取りあえずは町内に先駆的に品を出すということですが、スーパー、あるいはコンビニ等で全国展開をしていくということになってまいります。

昨年5月の8日の衝撃的なレポートから地方創生の動きが一気に走りだしたわけですがけれども、今のままで行くと半分の自治体が消滅するだろうということでもあります。とにかく人口の流出も北海道は全国で47都道府県の中で最も多いです。本当は地方のほうの出生率は高いのですけれども、北海道の場合は両方とも厳しい状況にあるということですから札幌に一極集中をしているという現状、このままで行くと北海道の人口減少率も極めて大きいという問題であります。

何もしなければ今のままの状況になるということ

です。ですから、マスターレポートも今のままでは大変なので何か手を打てよということのそういったメッセージだというふうに思っております。

今の出生率を見ますと、全国で1.38、東京で1.11、札幌では、1.08です。2人で1人しか産まないということですから、人口減少というのはどうにも止まらない。帯広でも1.38、上士幌町でも1.61、最も北海道で多かったのはえりも町の1.9くらいだと思います。地方に人が、若者が来なければ人口減少問題に歯止めがかからないというような思いで今むしろこれから頑張っていきたいなというふうに思っているわけです。

いかに首都圏に若者を行かないようにするか、あるいは首都圏の人方を地方へ帰すかだとか、こういったことが、最も大きな政策課題になったということです。これを今までは東京の一極集中に対して、そこまで踏み込んだ地方創生というのはなかったんですね。例えば日本列島改造にしても、あるいは竹下時代のふるさと創生にしても東京の一極集中を容認した上で地方をどう元気にさせるかという前提だったというふうに思っています。

ですが今回は、東京の一極集中を是正しなきゃ日本がおかしくなるということなので、やっぱり地方頑張っていかなきゃなということです。

ふるさと納税の恩返しということで、今年の2月1日にプリンスホテルで感謝祭をやりました。首都圏の5,500人に案内したところ1,900人から参加したいという申し込みがありました。抽選で1,000人にしました。石破創生大臣も関心を持って30分の予定が1時間半くらいいました。生産者と寄付者の顔つなぎをする、私どもとお互いに顔を合わすことによってもっとそこに絆が太いものが出てくるというふうに思っております。

次はいかにして上士幌町にそういう人方を今度は次の段階として来てもらおうか。全国で今課題になっている子育て、少子化、このところに手厚くこのお金を使っていこうということで基金条例を設けました。子どもの教育が上がるだとか子育てしやすいだとか、この環境に今徹底していこうというふうに考えております。

東京圏の人口超過、10万人今います。これを0にするという話です。子育てだとか、出産だとか、そういう環境を良くする。人口を増やすためにはそのことも必要になってくる。それから、少子高齢化の時代にコンパクトなまちづくりだとか、お年寄りも安心して住めるようなまちづくりの再編をする。そういったまちづくりの再編も、もう1回しなきゃならん。これを今各自治体で作ってほしいというのが国からの要望であります。いずれにしてもこういっ

た受け皿が地方です。どんなに東京が、あるいは政府が言ってもその受け皿が頑張らないとその実現できない。施策を講じるかというのは国の姿勢として必要ですけれども、それを自治体としてはどのように人を増やすかという政策を取って行かなきゃならんのがそうであります。

具体化する、数値目標を出すというのは行政は苦手なことでありますけれども、具体的な目標を定めるということは教育も地方創生のためにも大事な要素だと考えております。今年度から組長が教育委員会の教育委員の人方とお話をするということを法律的に義務付けられました。教育委員会と協議をして、町の方針、町長の姿勢方針、大綱を町長が作るということになりました。具体的に教育の中でも数値目標をしっかりある程度定めてメッセージを発信していくということでもあります。教育においても見える化をすべきであるというふうに加え、北海道のトップレベルを目指す。5カ年の間にトップレベルを目指す。これらもこれから総合戦略の中に組み込んでいきたいというふうに考えております。これからはそういう目標を立てて、そしてその町に来る人、来たい人、行ってみたい、そういう関心のある人に具体的に子育てはどうなっていくのか、あるいは高齢者福祉はどうなっているのか、こういったことを抽象的なことではなくて具体的に示していくことが大事だろうというふうに考えております。これがビジョンであります。

そのために今、総合戦略を作っております。「もっと伝えたい上士幌、もっと知りたい上士幌フェア」を東京と大阪でやる。もう一つは移住定住の考え方で。職場と住まい。上士幌に住まいがあって帯広に通う。こういったことがあってもいいのではないかと。3,000人くらいから4,000人を受け入れられるような、そういったイベントを大阪、東京で来年の1月くらいにやろうと思っております。そこでもっと縁ができて、今度は是非、上士幌にお試し暮らしで来るだとか、あるいは観光で来てもらう。応援から交流人口へという、そのようなシナリオでふるさと納税を使っていきたいというふうに考えております。

同じように札幌と帯広でもやろうと思っております。やっぱり田舎暮らしっていうのは、年取にすると残念ながら都会から見ると少ない。しかし、少ない給料の中であっても生活できるっていう、そういった行政サービスをどうするか、具体的に見える形で伝えていって、子育てをするために地方のほうで住むということも一つのこれから生き方でないだろうか、豊かさの意識変化をどう変えていくか、この辺がなければ、たぶん首都圏から地方に来るということもそう簡単に行く話でないだろう。

物、金で言うと、たぶん東京のほうが有利だと思います。ただ、現実の問題として豊かな生活をしているのはごくわずかな人方、そんなふうに思います。年金生活者だとか田舎で暮らしてみたいっていう人がいるはずだろうと思っております。その人方にこれからのいろんなメッセージを発信していって、もう一度生き方を変えていく。

そうしなければ、たぶん今のままの人口減少問題というのは、地方だけの問題ではなくて最終的には日本全体の問題として疲弊していくということでもあります。今回各町村で検討委員会を作ります。総合戦略の検討委員会を作ります。その中には今までの産官学、さらに加えて、金融、そして言論、こういったメンバーも含めて5カ年の総合戦略を作るべきだというふうになっております。町もこれから組織を立ち上げますけれども、金融の関係であれば、その地方で自治体と、あるいは地元の企業と組んで、一緒に仕事を立ち上げる。そんなことをたぶん金融界には期待しているのではないだろうかというふうに思います。言論界については、田舎暮らしが不便で、大変で、非常に悲惨だと、そういうことではなくてもう1回生き方を考えてみよう、そのようなメッセージを発信していただくのが言論界の役割、そんなふうに政府は期待しているのではないだろうかと思っております。そういったことをふるさと納税の全国からのお金を生かしながら、上士幌が地方創生の先駆的な事例を作っていければいいなと、そんなふうに思っております。

ふるさと納税の資料については、ネットで見ただけだと、簡単に分かるようになっております。もしご縁があれば上士幌のほうに一つお願いしたいと思っております。是非これからもいろいろ発信していきたい、そんなふうに思っておりますので、皆さん方も上士幌に少しでも関心を寄せていただければとこのように思います。

そして、上士幌で是非いい仕事を一緒にできればいいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

